



○「グリーンスローモビリティ」 社会福祉法人みずうみHPより→

「グリーンスローモビリティ」というのは、時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称です（国土交通省HPより）。2018年から松江市の法吉団地において地域貢献の一つとして社会福祉法人みずうみ*1さんが「地域共助型モビリティ」の実証実験を始め、持続可能な事業として模索しながらエリアを広げてこられました。低速電動自動車リホープの走る風景は今や日常のものとなっています。ここに至るまでの道のりなどを、みずうみの岩本理事長さんが『グリーンスローモビリティ』（学芸出版社・2021年）*2の中で紹介されています。



2017年の社会福祉法人法改正により社会福祉法人の地域貢献が責務となりました。一方、企業における社会貢献には、フィランソロピーやCSRという考えがあります。フィランソロピーとは、本業の余力で行われるもので、寄付を募るチャリティ活動や社員ボランティアなどの社会貢献活動です。CSR「企業の社会的責任」とは、本業を通じて行われる社会貢献で、企業が社会や環境と共存し、持続可能な成長を図るため、その活動の影響について責任をとる行動です。ある酒造会社は大学とともに、酒粕の飼料化について共同研究を開始しました。事業化が実現できれば、飼料を輸入する際に出るCO2の削減につながるそうです。また、メセナという企業が行う文化や芸術への支援活動もあります。本業とは直接関係のないコンサート企画や美術館運営などです。

松江東高校は、令和元年度より地域との協働による高等学校教育改革推進事業（文部科学省指定事業）を3年間行いました。地域との協働や地域貢献という考えが学校にも入ってきました。しかし、企業のように学校の教育活動により蓄積された資源や利益を地域に提供することはほぼありません。企業などの地域貢献や社会貢献には、利益の還元的な側面がありますが、学校はそもそも利益等を追究する組織ではありません。そのため、学校における地域や企業との連携・協働は、学校と地域や企業がウィンウィンになるものでないといけないと思っています。そうでないとどちらかに負担感や責任感が生じていきます。

では学校や生徒にとってのウィンとは何か。そこが不明確だと、地域課題解決学習なども、提案が絵に描いた餅でしかなくなります。well being（心や体が健やかな状態で人生を送れること）が叫ばれる今、地域や企業と何ができるか真剣に考えることが生徒の視点からも必要です。

*1 令和元年度より松江東高校の食堂及び購買事業を担っていただいております。保護者に喜ばれています。

*2 本書は、岩本雅之理事長から松江東高校図書館に寄贈いただいております。